

第16回歴史地震研究会に参加して

関西電力株式会社* 村上 嘉謙

平成11年9月24日から26日にかけて、第16回目となる歴史地震研究会が三重県伊賀上野市で開催された。数回前の研究会から、過去に歴史的な大地震に見舞われた場所で研究会を開催する、という方針が根付いてきており、今回の開催は1854年の安政伊賀上野地震にちなんでのものであった。1日目の午後と2日目の午前は研究発表が行われ、2日目の午後には「安政伊賀上野地震から三重県の地震防災を考える」というテーマのもと、市民に公開された形の研究発表討論会が行われた。この討論会は伊賀上野商工会議所の大ホールで行われたのだが、用意された席は開催前からすでに満席となり、立ち見の方が出るほどの盛況ぶりであった。市民の方の、地震防災に対する意識や関心の高さが窺えた。最終日の3日目は、安政伊賀上野地震のさいに動いたとされる木津川断層のトレンチサイトや、当時の大被災地である野間などを見学した。全日天候にも恵まれ、盛りだくさんで有意義な会合であったといえる。

私は、学部時代の卒業研究が安政南海地震の高知市での地盤変動を定量化する、というものだったため、そのときに古文書というものに触れる機会を得た。以後、歴史地震という学問分野に多少なりとも関わりを持つようになり、恩師である都司先生、上田先生のご紹介により歴史地震研究会にも参加させていただくようになった。今回で3回目の参加となるのだが、参加していていつも感じるのは、参加者が非常に多様であるということである。自然科学系の地震学者はもとより、津波・火山を専門とする研究者、そして社会科学や歴史学を専門とする研究者なども参加されている。地震という現象をたとえば防災という観点から観るとき、さらに地

震に関わるさまざまな情報を古文書から得ようとするとき、自然科学以外に社会科学や歴史学の概念が必要となるのは当然といえば当然なのだが、実際にこれだけ広い分野の方が一堂に会する場というものはなかなか珍しいのではないだろうか。私の、歴史地震研究のわずかながらの経験では、古文書というものは情報の宝庫であるとともに誤りの宝庫でもある。文書によっては、ウソ・大げさ・紛らわしい記述も多く、JAROも真っ青といったところである。その中から、的確に信憑性の高い記述を選び出して情報として活用していくためには、歴史的な観点からの「常識」のようなものや、その文書が書かれた背景、書いた人の社会的立場、文書の書かれた目的などを総合的に考察する必要がある。その意味で、純自然科学系以外の研究者が参加しているということは、非常に重要視すべきことであろう。また、多様な分野の研究者が集まるということは、多様な価値観・考え方に触れられるということでもある。その意味でも私は本研究会を新鮮に、そして魅力的なものに感じている。

2日目の公開討論会では、テーマ自体が地元の過去の大地震を扱ったものであることもあり、参加された市民の方々が非常に真剣に話を聞いておられるのがよく分かった。この中で印象深かったのは、伊賀上野市において市民防災に関するボランティアをしておられる中村氏の講演と、市民ボランティアが何をすべきかということについて言及された河田先生の講演である。伊賀上野市のような内陸の街では、大地震などの災害によっていとも簡単に市街へつながる道路が切断され、事実上孤立してしまう。よって、災害が起こった後の負傷者の救出や、二次災害の防止などの活動は、自らの手によっ

* 〒530-8270 大阪市中中之島 3-3-22
電子メール: K468598@kepco.co.jp

て行うほか手だてがないのである。そのために、大災害に備えて、市民ら自らが、自らを助けるための組織を準備しておく必要があるのだ、という主張には説得力があり、よく理解できた。このことは、なにも伊賀上野市に限らず他の地域でも大いに言えることであろう。災害が起こっても、自衛隊なり近隣の自治体なりが助けに来てくれる、という他人をあてにした考え方は捨てて、自分の身は出来る限り自分で守る、という姿勢が重要なのである。

3日目の見学会では、安政伊賀上野地震の時に動いてできた地割れを、直接目で見る事ができた。案内して下さったのが、地質調査所で木津川断層の調査をされている荻谷氏ということもあり、調査の生のエピソードなども聞くことが出来た。今回の見学会は、専門家が丁寧に案内をしてくれたことで、自然科学系の研究者の方も満足するような有意義な「巡検」になったのではないかと思います。前回、前々回の見学会では現地に存在

する歴史資料を直接見たり触れたりしながら、歴史的事実の追認をしていくという形のものであった。それが、今回は「巡検係」が存在することによって、歴史資料に触れられるだけでなく、自然科学的な見地からの考察も聞けるようになったのである。会の最後に行われた、今後のことを検討する会合、通称「都司さんを助ける会」でも話が出ていたのだが、今後は見学会にも責任者を立て、巡検にテーマ性を持たせ巡検資料をより充実したものにしていくと、さらに良い会合になるのではないかと私自身も考える。

最後に、本研究会を開催するにあたって、ほとんど一人で北へ南へ奔走された都司先生、会の運営に縁の下の力持ちとして非常に手厚くご協力下さった中村氏をはじめとする伊賀上野市市民防災フォーラムの皆様、会の開催を喜んで受け入れて下さった市長をはじめとする伊賀上野市の職員の方々、および市民の皆様にご心から感謝の意を表します。



9月24日見学会，大村神社にて(撮影:中村 操)